

計画演習 I

2. 21世紀の公共性とは?

開講年次: 学部3回生後期

[担当教員]

城戸崎和佐 (京都造形芸術大学教授)

大谷弘明 (日建設計) 近井務 (大林組)

[Teaching Assistant (修士1年)]

猪部 開 (A61) 谷口豪 (A61) 阪本昌則 (A61)

■課題主旨

21世紀の公共空間を「メディア」をキーワードに構築する。ここでは、メディアを情報媒体と考える。昔からある書籍や新聞などの活字媒体はその代表であり、音楽CDや映像DVDも情報媒体である。TVやラジオなどの放送も、インターネットも然りである。ファッションやプロダクト、建築などのデザインやアートも、演劇や音楽などのパフォーマンスも、飲食や都市、人までもメディアと考えることができる。

20世紀までのメディアはほとんどが活字媒体で「知の殿堂」たる公共図書館や大学図書館に蓄積され、取り出しお利用することが容易ではなかった。メディアの種類が増え、自宅にこもらメディアへのアクセスが容易になった現在、メディアを内包する空間には、あえてその場に行かなければ得られない知的体験や、ファンシオナブルで居心地のよい非日常、人ととの交流から生まれる情報共有が求められている。六甲駅ヒューラム空間の改札を出た瞬間から始まる、21世紀の公共空間を提案してほしい。

■概要

敷地は阪急六甲駅改札の外(ラチ外)から近隣の街区の一部を含む(別添地図参照)。そこに、書籍、音楽、映像、アート、演劇等を鑑賞、体験、または購入できる空間を組み合わせて設計し、また、これらの知的活動を発信するアーティストやクリエイターが長期滞在できるアパートメントホテルを持つ、複合施設を考える。建築は3階以上とする。一体型でも分棟形式でもかまわない。魅力的な外部空間を持ち、歩車動線についても提案すること。

■計画対象要件

- 1.ホール: 平土間のホール。可動客席200程度。演劇、講演会、イベント使用を想定する。
- 2.本屋: コンシェルジュ制で各コーナーが充実した書店。試し読みができる椅子や買った本を読むカフェ、バーなどを周囲にべること。
- 3.映像DVD、音楽CDショップ: コンシェルジュ制で各コーナーが充実したショップ、レンタルあり。試聴コーナーを設け、関連書籍の展開やイベント時のホール利用など、上記1や2のスペースとの連動も考慮する。
- 4.アートギャラリー・ワークショップもできる空間とする。
- 5.サテライトオフィス: FMラジオ局
- 6.アパートメントホテル: ダブル(30m²程度)リビング付ツイン(100m²程度)計10室以上。
- 7.地上階のバス乗り場、タクシー乗り場を整備する。
- 8.その他: 物販、飲食などの提案は自由。
- 9.延面積は8,000m²前後とする。

■最終提出物

タイトルおよびコンセプト(文字数は200字程度)、ダイヤグラムなど

配置図兼1階平面図(家具を入れる)縮尺1/200

各階平面図(家具を入れる)縮尺1/200

長手断面図2面 縮尺1/200

立面図2面 縮尺1/200

矩計詳細図ヶ所 縮尺1/50

来場者のアクティビティがわかるベース3カット以上

模型縮尺1/100



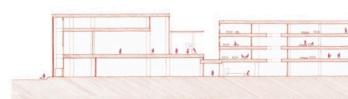
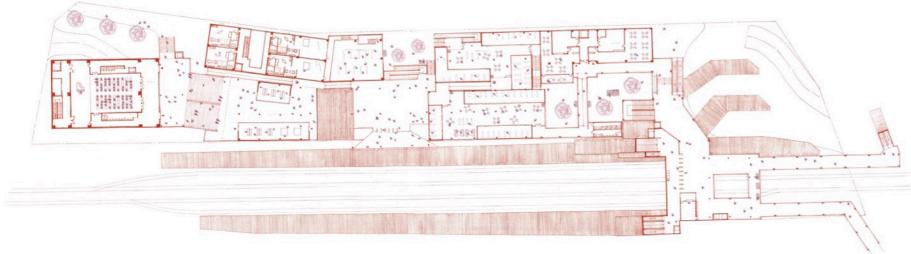
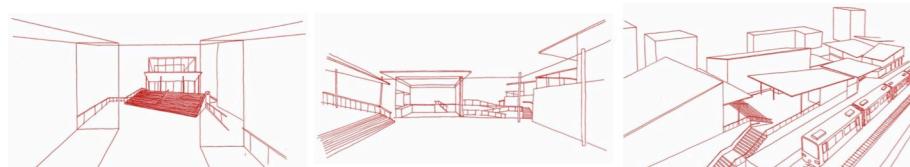
simplex street space

宮崎誠加

**根付く**

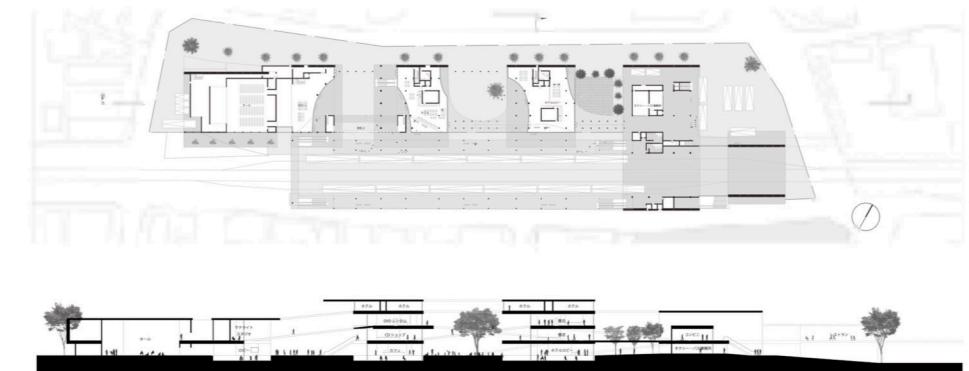
澤江隆志

この敷地を取り巻く人・車の流れ、周辺の建物の大きさや用途、それらを整えることで生まれた段差を利用して、棚田のように、人為的でありながらも自然な建築に、情報という曖昧な存在が根付くような風景を目指して。

**阪急六甲 日常を取り込む公共空間**

鎌田悠也

忙しい現代人は、意識しない限り新しいメディアに触れることがない。通勤や通学は私たちの「日常」を端的に表すものと考え、人々との動線とメディアが交わり、人々を日常から公共空間である複合施設に誘い込むような駅にしようと考えた。

**Meet at the Rokko Arch おもしろい出会い、あふれています**

鵜飼七緒子

この Rokko Arch は、構造体であるアーチとアーチの交わる空間を利用して、駅、本屋、CD ショップ、ホール、ギャラリーなどの機能も一緒に交わっています。
そこから生まれるのは、思いもよらない「出会い」。六甲での日常生活に新しい発見をもたらします。

